



## 育林、整備、伐採、そして流通の現場を見る

～山の手入れから材の活用までつなげて、水源環境保全税は活かされる～

杉やヒノキの森林が、木材として利用されなくなったため整備されず荒廃が進んで、水源林としての機能の維持も危ぶまれています。895万人もの県民の水を守るため、水源環境保全税を使って、61,555haの水源の森林エリアを対象に私有林の整備を進めたり、間伐材の搬出を促進したりといった事業が始まっています。

第2回の森チームのモニタリングは山北町向原地区で「水源協定林」という方法で私有林を公的に管理・支援しているフィールドを見学し、その次に、伐採された材を集積する神奈川県森林組合連合会林業センターを見学しました。各事業は始まったばかりで、山積された課題の解決にはまだまだ時間はかかることと思いますが、市民の目線でしっかりと捉えて、意見や提言に努力していくことが必要です。

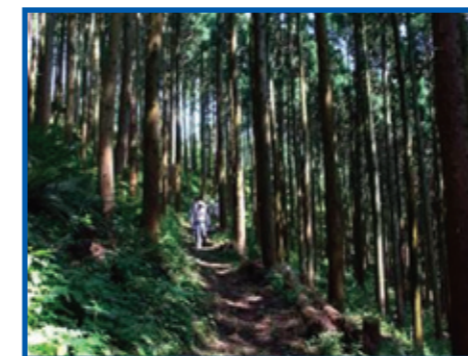
### <モニター事業の概要>

●かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画での位置付け

- ①特別対策事業1「水源の森林づくり事業の推進」
- ②特別対策事業4「間伐材の搬出促進」

●モニター箇所

- ①山北町向原
- ②神奈川県森林組合連合会林業センター（秦野市菖蒲）



【山北町向原】



【神奈川県森林組合連合会林業センター】



### 片山委員（関係団体代表）

山北町における森林づくり事業の現地に向う途中、手入れが放任されている森林を実見し、対策の必要性を実感した。

低迷を続ける国産材の価格、林業従事者の高齢化と後継者不足、この克服なくして課題の解決はないと思う。

### 増田委員（関係団体代表）

所有者と県が協定を結んでいる水源協定林を視察したが、20年間の借り上げ中、3～4回間伐をして最終的には混交林にして返すそうだが、所有者に戻ったその先が、果たして、水源林としての維持が出来るのか気になるようです。

### 真覚委員（公募委員）

今回見学した林業センターは、主として県産材の販売・加工を行っており、県内唯一の木材市場である。持ち込まれた木材の受託販売の取り扱い量・金額は平成10年以降ジリ貧であったが、「間伐材搬出促進事業費補助」がはじまってから持ち直し増加している。これを起爆剤にして、木材の生産・流通・消費の循環が活発になって欲しい。

### 吉村委員（公募委員）

県産材の需要が高まっていると聞きました。近くの山の木を使うことが、水源林を守り、地域の産業を振興すると思うので、一層の普及に期待しています。

「県産材だから」という理由だけに頼らず、水源林の機能を発揮しながら川下の需要にも応えられる持続的な森林を、山から消費者までが共に育てる意識が大切だと思います。

### 坂本委員（公募委員）

荒廃した杉、檜の人工林の整備は活力のある森林作りにつながり、間伐された材の有効活用は山の価値を高めるためにも重要なポイントですが、道路からかなり高台に位置するここでは残

念ながら材は出されることなく、現場にて横積みされている現状でした。整備された杉林の中に広がる明るい日射しは何ともいえない幻想的な緑色をしていました。

### 全体のまとめ

#### 倉橋委員（関係団体代表）

間伐が進んだ森は、下草が繁茂した明るく気持ちのよい森でした。しかし、森に沿って車一台分の細い道路が付いているのに間伐材が切り捨てられていたのが気になりました。また、広葉樹林については、自然林としてその環境に応じて成長しているので、手入れをする必要がないと思います。

県産の間伐材の集荷が増加しているのは、うれしい話でした。林業従業者が年間を通じて仕事を得られれば、生活の安定も期待できます。現状では集積場が手狭で、月に一度しか市を開けないそうですが、県産材が需要に応えられつつある状況に希望が見えました。

# 荒廃の進む私有林を長期的な視点で整備

～間伐された森林は心地よい風が吹く～

## 水源の森林づくり事業の推進

【ねらい】 良質で安定的な水を確保するため、荒廃の進む水源の森林エリア内の私有林の適切な管理、整備を進め、水源かん養など森林の持つ公益的機能の高い「豊かで活力ある森林」を目指す。

●山北町向原（モニター箇所）

【概要】 公的管理（水源協定林※1）している水源林において、水源かん養機能を高めるため、混交林※2など豊かで活力ある森林を目指して整備を行う。

間伐 8.42ha、径路新設 2,980m、丸太柵工 70m、丸太筋工 1,132m

【実績】（平成19年度）

・事業費 19,761千円、面積 12.28ha

※1 水源協定林…森林所有者との協定（借上げなど）により森林整備を行う。

※2 混交林…針葉樹と広葉樹が混生する森林

## Q&A (Question & Answer)

Q.01 どのような構想で事業がすすめられていますか？また、間伐材の利用計画はありますか？

A.01 所有者のご希望に沿った手法で各現場毎に地形や樹種等を考えて整備内容を定めます。材の活用については地理的条件等により、搬出経費がかさむため、間伐材の搬出には至っていない経過があります。丸太筋工等の材料として一部現地での利用を図っています。

Q.02 広葉樹林の整備方針はどのようなものですか？

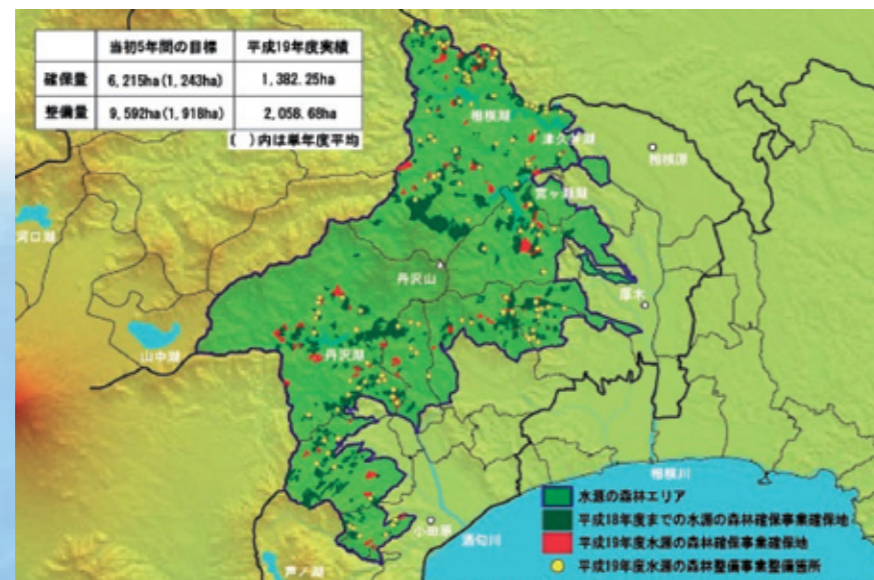
A.02 広葉樹林は取り扱いが難しく、大まかな指針はありますが、具体的で細かい方法はまだ確立していない現状があります。「土を流さない状態の維持」「枯れたり、傾いている樹木の整備」等から手がけています。



過去に整備され下草が生えている状態の森林を歩く



手入れのされた森林に光が入る(整備直後)



【この地図の作成に当たっては、国土地理院の承諾を得て、同院発行の基礎地図情報を使用したものである。】(承認番号 平20年度、第136号)

(出典:かながわの水源環境の保全・再生をめざして(神奈川県HP))

# 木材資源循環を進めて森を育てる

～これからの県産材の活躍に期待します～

## 間伐材の搬出促進

【ねらい】 水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進めるため、間伐材の搬出を促進し、有効利用を図ることにより、資源循環による森林整備を推進する。

【実績】（平成19年度）

・事業費 65,590千円、搬出材積 6,033m<sup>3</sup>

●神奈川県森林組合連合会林業センター(モニター箇所)

【概要】 森林組合等からの出荷木材について、製材業者等の買方業者に対して、年間10回程の入札等により木材共販（平成19年度木材共販 10,801m<sup>3</sup>）を行うほか、木材加工により土木用・造園用杭丸太の生産等を実施し、森林組合等へ販売（平成19年度杭丸太売上本数 162,000本）を行う。



林業センターでのヒアリング



集積された木材

## Q&A (Question & Answer)

Q.01 間伐材の入荷量が増えても受入は今後も可能ですか？

A.01 繁忙期（冬）と閑散期（夏）の入荷量の格差が非常に大きいので、今でも秋から冬にかけては手一杯です。更に増えるなら、施設の拡充と人手を増やす必要があります。

Q.02 杭の加工の際に出る端材や大量の樹皮はどう処理しているのですか？

A.02 杭の端材は幼稚園や学校の教材として利用してもらっています。樹皮については水を含んでいて燃えないので、産廃処理をしています。

## 個人県民税の超過課税による水源環境保全・再生への取組み

県では、平成19年度から個人県民税の超過課税を県民の皆様へお願いし、納税者一人当たり平均して年額約950円をご負担いただいています。これによって、森林の保全・再生のほか、河川や地下水の保全・再生、ダム集水域での生活排水対策など「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」（計画期間：平成19年度～23年度、事業費約190億円）に位置付けた12の特別対策事業※を推進しています。

## ● ※特別対策事業 ●

特別対策事業 12 事業のうち、評価・検証事業を除いた 9 事業について、順次モニターを実施しています。

- ① 水源の森林づくり事業の推進
- ② 丹沢大山の保全・再生対策
- ③ 溪畔林整備事業
- ④ 間伐材の搬出促進
- ⑤ 地域水源林整備の支援
- ⑥ 河川・水路における自然浄化対策の推進
- ⑦ 地下水保全対策の推進
- ⑧ 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進
- ⑨ 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進

(○印は今回モニターした事業)